

第3学年 道徳科学習指導案

日 時 令和3年11月25日(木) 5校時
児 童 3年1組 男11名 女10名 計21名
授業者 佐藤 環

1 主題名 いやだと言えるように (A 善悪の判断, 自律, 自由と責任)

2 教材名 言い出せなくて(「新・みんなのどうとく 3」 学研)

3 主題設定の理由

(1) 児童について

学級の児童は、明るく素直で、学級内や他学年の児童と仲良く遊び、学校生活を楽しく過ごしている。しかし、些細なことから友達とトラブルになったり、言い争いやけんかになったりすることも多い。その原因として、相手の気持ちを考えずに軽い気持ちで言った一言が挙げられる。さらに、相手の言動が嫌だと思っても、その場で自分の気持ちを上手く伝えられなかったことで解決につながらないことがある。

そこで、事前アンケート『人に言われていやだったあだ名はありますか。』を実施し、価値への意識づけを行った。結果は以下の通りである。

人に言われていやだったあだ名がある。・・・7人／21人 「いやだ」と言えた。・・・1人／7人 「いやだ」と言えなかった。・・・6人／7人
--

アンケートの結果、人に言われていやだったあだ名がある児童は学級の3割ほどいる。その中で、「いやだ」という気持ちを相手に伝えられなかった児童がほとんどだった。その理由として、「仲のよい友達に自分の気持ちを伝えたら、次から遊んでもらえなくなるのではないか」「気持ちを伝えたとしても、きちんと話を聞いてくれないのではないか」等と心配して、気持ちを伝えることをためらってしまうということを挙げている。また、普段の児童の様子からも、自分の言動が悪いことだとよく分かっていないため、つい言ってしまう児童もいる。そして、その言動がいやだと思っても、相手にその気持ちを伝えられない児童が多く見られる。

このような現状から、自分が正しいと判断したことを自信をもって実行することの大切さに気づかせ、それを生活の中で実践していく意欲を持たせたいと考える。

(2) 道徳的価値について

学習指導要領第3学年及び第4学年の内容の「A 主として自分自身に関すること」の「善悪の判断, 自律, 自由と責任」は、「正しいと判断したことは、自信をもって行うこと」である。この内容項目は、次のように発展していく。

低学年 よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。	中学年 正しいと判断したことは、自信をもって行うこと。	高学年 自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること。	中学校 自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。
---	--------------------------------	--------------------------------------	--

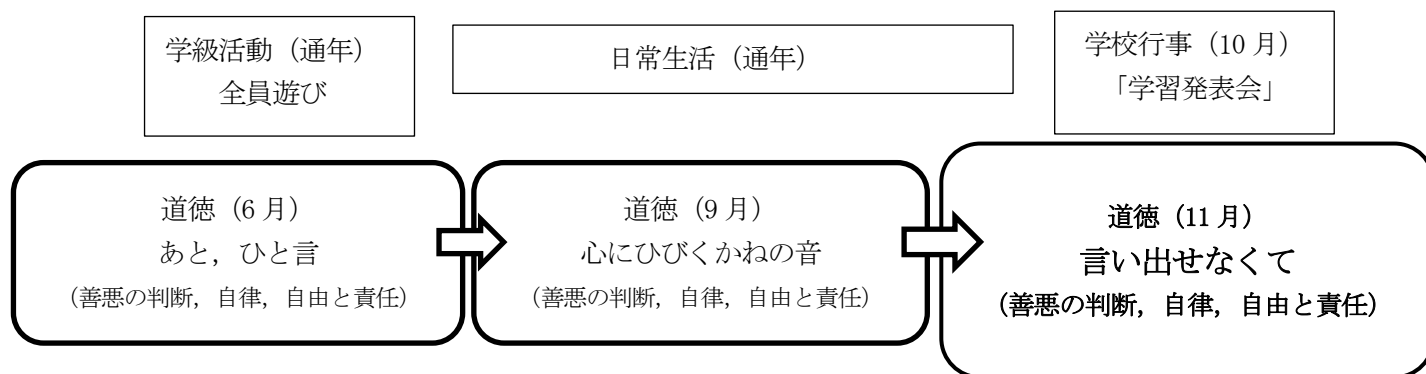
中学年の児童は、正しいことや正しくないことについての判断力が高まってきているものの、正しいとわかっていてもなかなか実行できなかったり、悪いことと知りながらも周囲に流されたりする様子が見られる。そこで、正しいことを行えないときの後ろめたさや、自ら信じることに従って正しいことを行ったときの充実した気持ちを考え、正しいと判断したことは自信をもって行い、正しくないと判断したことは行わないようにすることが、自分のよりよい生き方につながるということに気付かせることが大事であると考え。

(3) 教材について

本教材は、友達から「おかず」と呼ばれることが嫌なかずやの気持ちや、それを乗り越えて自分の気持ちを言った理由を考えることを通して、ねらいに迫るものである。

主人公のかずやは、「おかず」というあだ名で呼ばれることがいやだったものの、友達に言い出せずにいた。悩んだ末に自信をもっていやな気持ちを友達に伝え、二人はかずやの気持ちに気付いて謝ってくれた。正しいと判断したことを、自信をもって実行したかずやの姿から、自分が正しいと判断することの大切さについて考え、自信をもって行動しようとする態度を育てることができる教材である。

4 主な各教科等との関連



5 本時の指導

(1) ねらい

友達に「やめて」と言い出せない気持ちや、言いづらいことも友達だからこそ伝えることのよさについて考えることを通して、自分が正しいと思うことを自信をもって行動しようとする態度を育てる。

(2) 展開

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の意図・留意点
つかむ 2分	1 教材への関心を高める。 ・あだ名についての事前アンケートの結果を提示する。	・いやなあだ名で呼ばれたことがあるが、「いやだ」と言えなかった。	・事前アンケートの結果を活用することで、ねらいとする道徳的価値への方向付けをするとともに身近な問題であることに気付かせる。
ふかめる 33分	2 教材を基に話し合う。 ・教材を読んで心に残った場面を発表する。	・かずやが勇気を出して、『おかず』と呼ぶのはやめて』と言ったところ。自分にはできないかも。	・心に残った場面を考えながら聞くようにさせる。 ・心に残った場面をもとに学習課題を設定する。
	なぜ、かずやは「やめて」と言うことができたのだろう。		
	○かずやは、あだ名を付けられて、どんな気持ちだったでしょう。 ○かずやはなぜ、なかなか言い出せなかったのでしょうか。	・変なあだ名で呼ぶのはやめてほしい。 ・そんなに悪い気持ちで言っているんじゃないだろう。 ・すぐにやめるだろう。 ・いやだと言ったら、きまづくなってしまうかもしれないから。 ・いつも遊んでいる仲良しの友達だから。 ・がまんすれば仲良くやっていけるから。	・自分たちの友達関係と似ていることに気付けるように、かずやと他の二人は仲良しなことをおさえる。 ・かずやは何度も「やめて」と言おうと思ったことから、ためらう理由がたくさんあったことに気付かせる。 ・かずやの葛藤する気持ちを全体で深めるために、心情円盤を用いて児童の考えを把握し、意図的に指名していく。
	◎どうして、かずやは「やめて」と言うことができたのでしょうか。	・お母さんに言われたから。 ・言わないとやめてくれない。 ・がまんしていてもだめだ。 ・勇気を出そう。	・自分の考えをノートにまとめ、グループで話し合いを行う。さらに考えを深め合うために全体交流を行う。

	○自分の気持ちを二人に伝えることができたか？やは、どんな気持ちになったでしょう。	・二人とも分かってくれるはず。 ・言わないと、自分が思っていることは伝わらない。 ・もっと早く言えばよかった。 ・伝えたらすっきりした。 ・これからは自信をもって言おう。	・自信をもって伝えた時の充実した気持ちに気付かせる。
みつめる 7分	3 道徳的価値の内面的自覚を深める。 ○これまで、友達に自分の気持ちを、自信をもって伝えてよかったことはありますか。今日学習して学んだことを、自分の生活を振り返って書きましょう。	・今までは、友だちに嫌われてしまうかもということを感じて、自分の考えを伝えることができませんでした。これからは、いやなことがあったら「やめて」と自信をもって伝えていきたいです。	・本時の学習について、正しいと思ったことを自信をもって行おうとする態度が高められるよう、自分の生活を振り返らせながらまとめさせる。
ひろげる 3分	4 今後の実践につなぐ。 ・児童の振り返りを交流する。		・友達の振り返りを聞くことで、より理解を深める。

(3) 評価の視点

○正しいと判断することの大切さについて、深く考えていたか。

○正しいことを自信をもって行動しようとする大切さについて、これまでを振り返り、自分の関わりで考えていたか。

(4) 板書計画

(5)

挿絵

- ・もっと早く言えばよかった。
- ・すっきりした。
- ・これからは自信をもって言おう。



挿絵

- ・言わないとやめてくれない。
- ・がまんはだめ。
- ・がんばって言おう。
- ・二人とも分かってくれる。
- ・言わないと伝わらない。

なぜ、かずやは「やめて」と言うことができたのだろう。

アンケート結果

言いだせなくて

- ・へんなあだ名でよぶのはやめて。
- ・かなしいな。
- ・そんなに悪い気持ちで言っていないかも。
- ・すぐにやめるだろう。

挿絵